

Shape your world



立命館アジア太平洋大学 (APU) の概要



2009.2.23 内閣府高度人材受入推進会議 第3回実務作業部会

Shape your world



多文化キャンパスの実現

■世界からAPUへ- 87カ国・地域から5,990(国際2,830/国内3,160名)が学ぶ -



・「日英二言語教育」 授業を受ける言語を「日本語」と「英語」から選択して学ぶ
・多文化・多言語キャンパスで身につく多文化理解、言語運用能力



日英二言語教育の実践

- 言語教育科目(英語)

成績評価の一部にTOEFLまたはTOEICのスコアが含まれます。
(学内で年10回の受験が可能)

- 英語で学ぶ専門科目

300番台(応用)以上の英語開講科目履修は、**TOEFL500点**以上に相当する英語力が必須。
専門講義の約8割が日英二言語での開講。

科目名	1週間の授業回数	到達目標
英語入門	4回	TOEFL400点
英語初級 I・II	8回	TOEFL450点
英語中級 I・II	8回	TOEFL500点
英語上級 I	4回	TOEFL550点
英語上級 II	4回	TOEFL600点

■英語上級 I・II は選択科目

- 要卒単位124単位中、**20単位の英語開講科目履修が必須**
(2004年度入学者より)

- 英語授業以外にも英語力の向上をサポート

TOEFL・TOEICの学内団体特別受験

TOEFLテスト対策講座

自己学習センターでの学習サポート(2007年より)

Active Learning/仕組み

座学(知識のINPUT)

経験・交流(実体験によるOUTPUT)

海外
Global Active Learning

言語イメージン

交換留学

フィールド・スタディ

プロジェクト研究

ボランティア研究

インターンシップ

日本国内
Active Learning

フィールド・スタディ

プロジェクト研究

ボランティア研究

インターンシップ

更なる専門教育の学修

英語イマージョンプログラム(4~6週間程度) 2007年度:8プログラム123名参加

- ・主に1、2回生向け。
- ・夏季・冬季期間中に海外で英語力アップを図る。
- ・帰国後、APUでの英語開講科目履修などの円滑な学習につなげる。

★2008年度冬セッション期間 実施予定プログラム(募集期間10月~11月上旬)

- 実施校: シンガポール国立大学(シンガポール)
ノーステキサス大学、ミネソタ大学(米国)
- 費用めやす: 40万円~70万円程度(授業料、宿泊費等を含む)
- 実施レベル: 英語初級~英語上級 (合格者は単位認定もしくは履修免除可)

AP言語イマージョンプログラム(4~5週間程度) 2007年度:9プログラム49名参加

- ・夏季・冬季期間中に海外でAP言語(アジア太平洋言語)の能力を高める。

★2008年度冬セッション期間 実施予定プログラム(募集期間10月~11月上旬)

- 実施言語: 中国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語
- 費用目安: 15万円から20万円程度(授業料、宿泊費等を含む)

テーマベース型プログラム 2007年度:5プログラム58名参加

- ・主に2~4回生向け。
- ・夏季・冬季期間中に海外で、調査活動を行い、専門知識を深める。
- ・英語で学ぶ力の強化。

★2008年度冬セッション期間 実施予定プログラム(募集期間10月~11月上旬)

- タイ・ワライラック大学エコツーリズム集中コース(4週間)
- フィリピン・ネグロス島 現地研修プログラム(3週間)



Global Active Learning/制度

交換留学(1 Semester(半年)~1年間)

海外協定大学へ留学する制度。現地学生と共に主に専門を学びます。
世界36カ国・地域100校に留学可能。

- ・学内募集・選考は毎Semester1回実施。1回生後期から出願可能。
 - ・出願者は、各協定大学が定める出願基準(TOEFLスコアとGPA)を満たす必要があります。このため、TOEFL対策など各種留学サポート講座を提供しています。
 - ・留学期間は在学期間に算入され、単位認定も可能なため、4年間での卒業が可能。
 - ・派遣先大学学費は免除。留学期間中のAPU授業料Aおよび授業料B、ビザ取得にかかわる費用、保険料、渡航費、渡航先住居費、生活費等が必要になります。
- ※2008年度は、67名の学生が派遣され、95名を協定大学から受け入れています。



ご参考: 留学する場合の学籍状態・学費・単位認定の有無

	交換留学	個別合意に基づく留学	休学による海外渡航
学籍状態	「留学」	「留学」	「休学」
学費	APU授業料A + APU授業料B	APU授業料A + APU授業料B + 留学先学費	審査・事務手数料15,000円 APU在籍料5,000円/Semester + 渡航先学費 * 在籍料は2008年度の額。
単位認定	可		不可

Shape your world



Global Active Learning/制度

フィールド・スタディ

2007年度：海外11プログラム112名参加、国内13プログラム194名参加

主に夏や春のセッション期間中に、キャンパスの外に飛び出し、担当教員と共に様々なテーマに沿った調査活動をする、アクティブ・ラーニングの中心的プログラムです。

学部	プログラム	実施地
APS	スラウェシの木造船技術の体験と帆走航海を通じた文化交流プログラム	インドネシア
	パラオの持続可能な観光開発	パラオ
	NPO研究＋農村体験/実態調査と考察および分析＋農村コミュニティでの生活	新潟県
APM	マレーシアにおける地元企業の創業パターンの検証—日本の中小企業創業との比較—	マレーシア
	企業発見・体感ツアー	大阪など 関西地区
APS& APM	まちづくりと環境政策	長野県 飯田市
	東南アジア体験フィールドトリップ	マレーシア



フィールド・スタディ(CAP)

アジア太平洋学部とアジア太平洋マネジメント学部の領域を融合(クロスオーバー)させるプログラムが**CAPプログラム(クロスオーバー・アドバンスト・プログラム)**です。
2回生から、CAPの学修がスタートします。

CAPの学修においてはフィールド・スタディへの参加を強く推奨しており、5つのCAPプログラムのうち、2007年度夏季には3つのCAPで以下のプログラムを実施しました。
今後、残りのCAPでも順次実施予定です。

CAP	プログラム	実施地
ツーリズム & ホスピタリティプログラム	朝鮮通信使の道を歩く	韓国
	Protecting World Heritage through Tourism	オーストラリア
健康・環境・生命プログラム	エコキャビンで学ぶ環境問題	イギリス
国際戦略プログラム	北東アジアの戦略問題におけるモンゴルの役割	モンゴル
	グローバル化する世界とイスラーム：インドネシアから見る	インドネシア

07夏フィールド・スタディ、フィールド・スタディ (CAP) 参加者アンケート「大変有意義である」(69%) 「有意義である」(31%) と高評価!

Global Active Learning/制度



ボランティア研究 2007年度:23名参加

国際教育交換協議会(CIEE)が主催する、「**国際ボランティア・プロジェクト**」「**エコ・ボランティア**」に参加します。

海外の多くの国々で、社会福祉や修復、環境保護など、自分の興味に合った内容のボランティアに参加しながら、世界中から集まった参加者や地元人々との交流を深めることもできるプログラムです。

インターンシップ 2007年度:海外35名、国内23名参加

在学中の学業の成果を踏まえ、将来のキャリアに関連して就労体験をします。

大学と協定を結んだ受入先で実習する

「**協定型インターンシップ**」と、

学生が自ら受入先を開拓する

「**自由応募型インターンシップ**」の2種類があります。

就職状況

■ 2007年度就職内定率 (2008年3月31日)

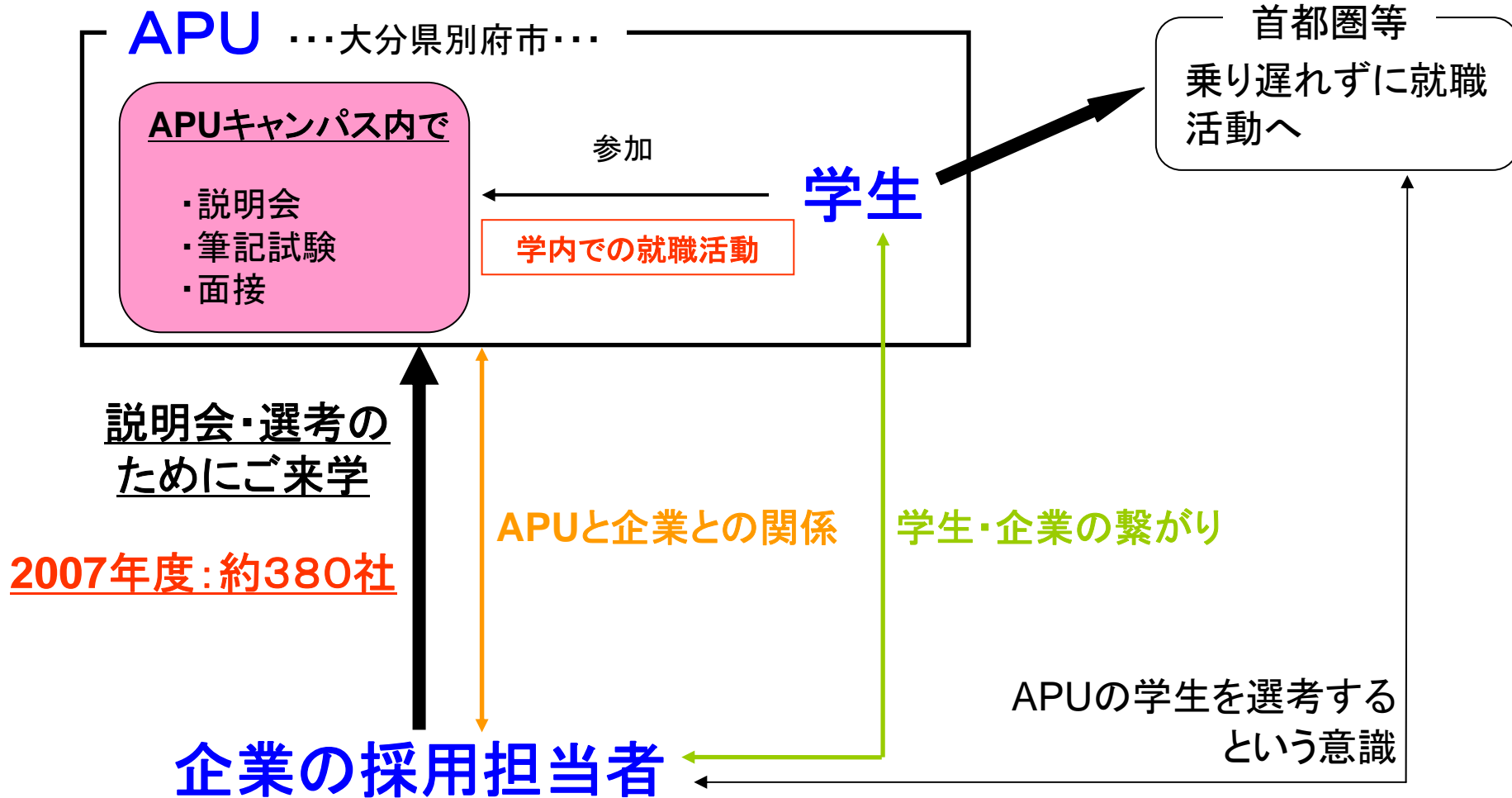
内定率(=内定報告者/就職希望者)

	全体	国内学生	国際学生
就職希望者数	705	478	227
内定報告者数	682	463	219
内定率	96.7%	96.9%	96.5%

	国内全体	国内男子	国内女子
就職希望者数	478	226	252
内定報告者数	463	222	241
内定率	96.9%	98.2%	95.6%



オンキャンパス・リクルーティング



トップ講演会

これまでに開催されたトップ講演会

<p>第1回(2000年5月10日) 大分県知事 平松守彦氏 「アジアとの共生～ローカル外交と一村一品運動～」</p>	<p>特別講演(2000年6月19日) 前駐日フィリピン共和国全権大使 ユーチェンコ企業グループ会長 アルフォンソ・T・ユーチェンコ氏 「アジア市場における21世紀のビジネス」</p>
<p>第2回(2000年5月24日) (株)東芝 代表取締役社長 西室泰三氏 「Global Market Trend and Toshiba's Challenges」</p>	<p>第5回(2001年10月10日) 日本ヒューレット・パッカド(株) 代表取締役社長 寺澤正雄氏 「インターネットの将来と皆さんへの期待」</p>
<p>第3回(2000年10月18日) 日本予防外交センター 会長 明石康氏 「国際社会における日本の役割～国際貢献とは～」</p>	<p>第6回(2002年4月17日) マイクロソフト(株) 代表取締役社長 阿多親市氏 「Unlimited Potential 無限の可能性」</p>
<p>第4回(2001年1月10日) 日本アイ・ビー・エム(株) 最高顧問 椎名武雄氏 「異文化との共生～日本IBMの歴史から～」</p>	<p>第7回(2004年6月16日) キヤノン(株) 代表取締役社長 御手洗富士夫氏 「キヤノンの経営戦略」</p>



トップ講演会

これまでに開催されたトップ講演会

<p>第8回(2005年6月15日) アデコ(株) 代表取締役会長 マーク デュレイ氏 「世界のアデコが見抜く！雇用環境 －雇用システムの未来デザインを探る」</p>	<p>第12回(2006年12月15日) 全日本空輸(株) 代表取締役会長 大橋洋治氏 「あんしん、あったか、あかるく元気！ ～アジアNo.1の航空会社を目指して～」</p>
<p>第9回(2006年10月4日) 富士ゼロックス(株) 相談役最高顧問 小林陽太郎氏 「新しい時代に生きる」</p>	<p>第13回(2007年11月9日) (株)ユニクロ 代表取締役会長兼社長 柳井正氏 「日本発世界企業」 ～服を変え、常識を変え、世界を変えていく～</p>
<p>第10回(2006年11月16日) 富士通(株) 代表取締役社長 黒川博昭氏 「夢をかたちに～富士通のチャレンジ～」</p>	<p>第14回(2008年10月29日) (株)ローソン代表取締役社長 新浪剛史 氏「ローソン チャレンジ」</p>
<p>第11回(2006年12月8日) 日産自動車(株) 取締役副社長 高橋忠生氏 「日産のグローバルゼーション ～グローバルビジネス時代をどう生きるか～」</p>	



その他の取り組み

●エクステンション講座

正課外講義として、資格取得、就職試験対策講座を開講

- ①公務員講座(地方上級・国家Ⅱ種対策)
2008年度新規開講
- ②簿記講座・パソコン(MOUS)講座

●業界別ガイダンス

人気業界について‘就活’のポイントをレクチャー

- ①金融
- ②メーカー
- ③旅行
- ④商社

●キャリア・セミナー

国連・省庁・自治体など公的機関での働き甲斐、魅力などについて講演

- ①国際分野キャリア・セミナー
- ②公務員キャリア・セミナー

【2008年度キャリア・セミナー担当機関】

1	国際開発ジャーナル社
2	外務省国際機関人事センター 国連児童基金(ユニセフ)
3	大分県庁
4	国連世界食糧計画(WFP)
5	外務省中東アフリカ局
6	外務省経済局
7	国際移住機関(IOM)
8	世界銀行

■ APUの社会的評価

朝日新聞社『2009年版大学ランキング』

□学長からの評価ー	教育分野	9位(7位)
	研究分野	25位(ランク外)
	総合評価	17位(新項目)
□高校からの評価ー	総合評価	27位(35位)
	九州・沖縄地区評価	2位(2位)
	進学して伸びた	28位(41位)
□国際ボランティアー	参加学生数2007年	8位(22位)
	参加学生数2003-2007	20位(30位)

電通九州『大学ブランドパワー診断調査』2006年2月発表

□総合ブランドパワー	1位 九州大学、2位 APU
□次代開発力	1位 APU、2位 九州大学、3位 西南学院大学
□情報・文化発信力	1位 APU、2位 九州大学、3位 崇城大学

教育界をはじめ、一般からも高評価

■ 文部科学省による教育内容の評価

年度	申請区分	採択プログラム名
2007	現代GP	学生力を活用した地域への還元教育システム
	学生支援GP	学生による若者と社会のための自主活動支援
	留学生GP	革新と創造をもたらす『イノベーションと技術経営』 人材育成プログラム
	大学院GP	APU・MBAプログラム
	アジア人財資金	グローバルビジネスリーダー
2006	現代GP	グローバル人材養成のためのキャリア教育
	留学生GP	日本-EU/文理にまたがる大学院共同学位プログラム
	留学生GP	移行経済・経営システム・デザインプログラム
2005	国際化GP	グローバル・アクティブ・ラーニングの開発
2004	現代GP	Student Mobilityの推進
	海外先進GP	言語教育プログラム高度化
2003	特色GP	多言語環境における日英二言語教育システム



特色を持った教育プログラム・国際的に有為な人材の育成

■ 国際的教育・研究機関として、開かれた大学

- 2007年4月 APU孔子学院開設(九州初)
- 2007年6月 「東アジアラウンドテーブル」(外務省・ASEAN共催)
- 2007年8月 サウジアラビア政府奨学生受入
- 2007年9月 世界観光機構と協力協定締結(日本の大学では初)
- 2007年12月 「第1回アジア・太平洋水サミット」
- 2008年6月 「次世代水ユースを育てる世界ユース水サミット」

■ 国際貢献の主な取り組み(人材育成研修事業)

- 留学生無償支援事業(国際協力機構/JICA)九州では九大とAPUのみ
- 一村一品運動研修(国際協力機構/JICA)
- 中国大学管理運営幹部特別研修(国際協力銀行/JBIC)
- ブルガリア・ビジネス人材育成プロジェクト(国際協力機構/JICA)



教育・研究の高度化と国際化

Shape your world



多文化環境を活かしたAPU教育

■世界の学生と共に国際交流できる学生寮をキャンパス内に完備



- ・2007年度より定員1,308名 (国内学生は約300名入居)
- ・レジデントアシスタント (RA)の育成
- ・寮内教育プログラム



■奨学金

- ・日本学生支援機構奨学金(旧:日本育英会)
第一種(無利子)／第二種(有利子) *4月募集(秋期に募集を行う場合も有)
- ・優秀学生奨励金・自主活動奨励金
- ・弔慰金・修学援助奨学金(父母の会)

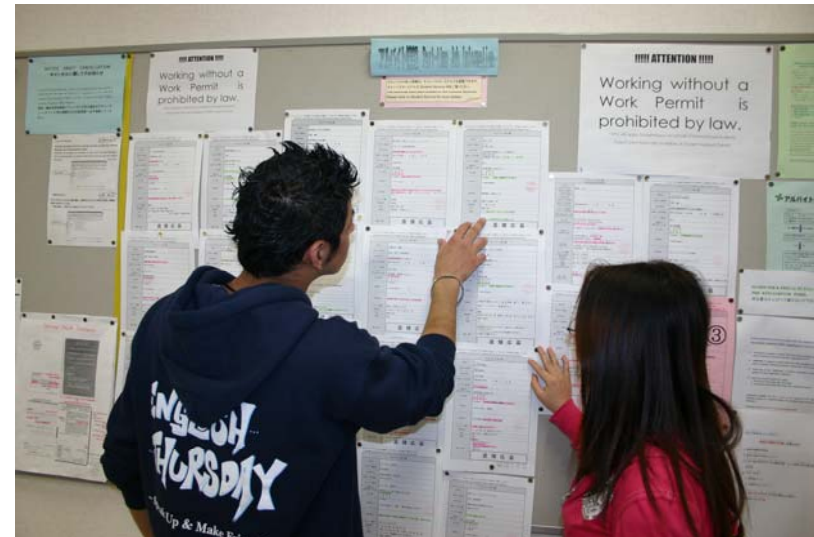
■アルバイト

学生への経済面での支援として、良質なアルバイトは窓口で紹介
キャンパス内での雇用創出に努める

- ・授業での学生アシスタント
- ・情報機器インストラクター
- ・カフェテリアでのアルバイト など

■健康管理

- ・カウンセリングルーム
- ・ヘルスクリニック
- ・健康診断(年1回)





APUでの学生生活②—住居・課外活動

■住居

- ・関連会社「クレオテック」より、良質な民間住宅を斡旋。
- ・クレオテックの事務所はキャンパス内にあるため、空き時間に利用可能。

■アクティブな課外活動

- ・正課外活動団体150団体
学生の4割以上が加入
- ・海外の国際会議へも積極的に参加



タイ政府主催「ASEAN+3」記念事業
東アジアユース・リーダーシップ・フォーラム



PRENGO
タイでの児童支援



APUでの学生生活③ー地域貢献活動

■地域連携

- ・地域/国際交流・地域振興、
- ・災害被災国支援、・ボランティア

新しいまちづくり
への参画



四川大地震
募金活動



国際理解教室への
学生派遣



市民との交流

